

幕別大樹線の糠内中里間は 早急な整備が必要

前 川 敏 春 議員

ことが望まれ、町として強力に整備要請をすべきと思うが、町の考えを伺う。

町長 幕別大樹線の整備は、本町としても主要な懸案として北海道に早期整備を強く要請している。

残りの整備区間約25kmに

については、隣接地が細かく分割されており、また、本州地権者のため用地買収が非常に困難な状況にあり、

改修整備に時間がかかると聞いているが、支障木、あるいは路面状況などの維持管理も含め、さらに強く要請活動が続けていきたい。



主要幹線としての整備が急がれる道道幕別大樹線

糠内コミセンの周辺に防犯 灯の設置を

問

糠内コミセン周辺の駐車場等は夜間暗くて危険であるが、防犯灯設置についての考えは。

町長

糠内のコミセンは、パークゴルフ場利用者の利便性を目的に保育所西側に駐車場を拡張し、南幕別老人交流館東側にも駐車

場を整備してきたところである。防犯灯の設置について

問

では、本年、地元住民の皆さんのご協力をいただき、コミセン正面入り口側と老人交流館側に照明灯を2基、設置したところであ

る。今後、コミセンの利用実態等も含め、調査検討を進めていく中で、地域住民の皆さんとも協議をしてい

きたい。

農業委員会を農業担い手支 援センターに移転しては

問

農業担い手支援センターが設置されてから2年余りが経ち、着実に業務が遂行されていることと思う。

町長

農業担い手支援センターは、農業者の高齢化、担い手不足に伴う農地の流動化を的確に対処し、

このセンターは、農業の拠点施設の一つであるが、総合的な観点から、農業委員会との一体性が望まれるところでもある。

将来的に農業委員会の事務所移転について、どのよ

うに考えているか伺う。

農業担い手支援センターには、担い手の育成確保、農地流動化、農業情報の提

供の三つの機能を配し、その業務は、平成14年6月に設立された幕別町農業振興公社が、町、農業委員会、あるいは幕別、札内、帯広大正農協などの関係機関と一体となつて進めているところである。

特に、農地流動化対策は、農地に関する相談、斡旋、調整の窓口を公社に一元化し、農業者などの相談から利用調整までの役割を公社が担い、農業委員会が許可事務を行うなど、役割を明確にしながら進めている。

担い手支援センターは、平成14年度に国の補助を受けた施設であること、また、担い手支援センターが設置され、農業振興公社が設立されてからまだ2年余りであり、相談窓口を一元化し、担い手や農業者が気軽に相談できるよう務めているところであり、その推移を見守ることからも、農業委員会の事務所を担い手支援センターに移転することとは、現状、難しいものと考えているが、今後において検討していきたい。